令和７年度　神奈川県立相模原中央支援学校　学校運営協議会開催結果

本校の学校運営協議会を次の通り開催しました。

審議会等名称	令和７年度 神奈川県立相模原中央支援学校 第１回学校運営協議会		
開催日時	令和７年７月９日（木）　14:00～15:30		
開催場所	相模原中央支援学校　地域生活支援室		
出席者	学校運営協議会委員　10 名（本校校長を含む）　（３名欠席）		
次回開催予定日	※未定		
問合せ先	相模原中央支援学校　副校長　榎本　郁子　　電話　(042)768-8510		
掲載するもの	議事録	議事概要とした理由	
審議・会議経過			

１　学校運営協議会
（１）学校長あいさつ
・４月に着任しました。本日はお集まりいただきありがとうございます。開校以来地域、保護者の皆様に支えられて学校運営をしてきた。忌憚のないご意見をいただき、本校の教育活動をさらに充実させていきたい。
（２）委員紹介
・名簿順にご挨拶をいただく。
　管理職・総括教諭の紹介
（３）学校運営協議会制度の概要について
・学校と保護者や地域が力を合わせて学校の運営に取り組むことができる仕組み。
・学校運営協議会の主な３つの機能
　〇校長が作成する基本方針を承認する。
　〇学校運営について、教育委員会又は校長に意見を述べることができる
　〇教職員の任用に関して、教育委員会規則に定める事項について、教育委員会に意見を述べることができる
・神奈川県として規則を定め部会を設置している。
・部会は神奈川県独自の仕組みで、学校評価部会と切れ目ない支援部会を置くことになっている。
・本校は、地域連携部会を含めた３つの部会を置いている。

２　学校評価部会
（１）令和７年度学校経営方針について
・基本理念コンセプト「子どもの未来をみんなで創る」のもと取り組んでいく。
・神奈川県教育委員会からミッションが定められ、３つのミッションを達成させるために取り組んでいる。
・学校教育目標は３点、基本的な生活習慣を身につけた子どもに育てる。豊かなコミュニケーション能力を身につけた子どもに育てる。すすんで働く意欲や態度を身につけた子どもに育てる。
・神奈川県では４年間を一区切りで学校教育計画を組み立てる仕組みを導入している。今年は４年の２年目。
・学校で大切にしたいことの１つ目は、わかりやすい授業。２つ目は、人権を守ること。３つ目は保護者との信頼関係を築いていくこと。４つ目は、教員の不祥事防止。５つ目は、働き方改革。
・子ども良し、保護者良し、学校良し、教職員良し　地域良しの三方良しの精神で。
（２）グループの今年度の取り組み　計画　手立て
ア 教務グループ
・４年間の目標を踏まえ、１年間の目標「子どもの『できた』を支援する授業を実践する」という

項目に重点を置き取り組む。個別教育計画をもとに PDCA を本人保護者と一緒に立てる、評価をする。

イ 研究研修グループ

・今年度の目標は「授業改善を進め、専門性の向上を図る」
チームによる授業検討会を行い、授業づくりをチームで行う。
研修会講演会、ICF に関する研修を行うことで、組織的な授業改善、専門性の向上を図る。

・ICT 支援員をとおして学校全体の ICT 活用の推進を図る。

ウ 支援連携グループ

・１年間の目標「卒業後の過ごしをイメージした学習の充実を図る」
小学部・中学部向けの進路説明会や学習会の実施、高等部は、進路学習の場を増やす。

・地域資源を生かした余暇活動の充実。

・地域の学校との連携、協力による子どもの社会性を育む教育の充実を図る。

・センター的機能の充実。

エ 総務グループ

・１年間の目標は、「通学支援を利用して安全に通学できる体制の整理」
医療的ケアを必要としている人のために神奈川県通学支援事業の利用、福祉車両の利用を推進する。

・災害時に安全で安心して過ごせる環境整備。学校の備蓄物品や設備の確認、教員研修の実施。

・不審者侵入防止対策と危機管理体制の充実。

オ 管理職

・不祥事防止の徹底。

・教員の働き方改革の推進。昨年度の教育課程の見直し、今年度の電話の自動応答システムの導入。

（３）意見交換

・教育課程の評価の観点が、指導案に記されているのか。授業討論会で明確になっているのか。ねらいをおさえた端末の利用では、見える化がされているのか。目的をおさえた交流ができているのか。
→授業でのポイントは共有しているが、指導案への記載は今後検討する。ICT 機器については、使うことを目的とせず、子どもの実態に合わせていくところをおさえている。交流については、居住地交流での報告書を引き継いでいく形をとっている。

・防災は、学校だけで解決しようとせず、地域との連携が必要。

・ICF とはどのようなものか。
→ICF の図を作成し、子どもを多角的に捉えるもの。

・ICF について、企業でも就労のために取り入れられているので関心が高い。

・進路の教員が熱心に取り組み、卒業後３年間の様子も見ていてくれることに感謝している。

・(共和小と本校で) いい連携をさせてもらって感謝している。アドバイスをもらえたこともありがたい。支援学校での目指しているところがわかった。

会場移動（参加者は「切れ目ない支援部会」と「地域連携部会」のそれぞれに分かれる）

3　各部会

（１） 切れ目ない支援部会
参加者７名

・1 年間の目標を「余暇活動・障がいスポーツを促進する」とし、具体的な方策を「ボッチャについての活動を実施する」「余暇活動の幅を広げる」「スポーツ以外の余暇活動について検討する」とした。

・今年度、第 4 回ぎんがボッチャ体験会や第 4 回ぎんが大会を実施予定。運営も地域と一緒に行う。

・パラスポーツ用品の貸し出しをホームページで紹介している。
・地域の図書館・博物館・商店街等の活用、高等部知的部門による推し活・旅行のプレゼン、地域の祭りへの参加等を行なっている。
・部活動を月2回程度2つのグループに分かれて行なっている。週末は、SRCによるバスケットボールの活動を在校生・卒業生が行なっている。

意見交換
・けやき体育館での活動をホームページで紹介している。余暇活動の広がりに活用できる。
・商店街の人材による講師も可能。
・高齢者の認知症の理解促進から始め、地域や町の理解につながった。
・ボッチャは地域とチームを組むように自治会に働きかけてみるとよい。
・ぎんが祭りではどのようなことを。
　→パン販売を行なっている。

終了

（2）　地域連携部会
　　参加者10名
・学校教育目標で掲げる「自立と社会参加を目指し」「地域社会でいきいきと暮らすことができるよう、地域とともに余暇支援、就労支援の推進を図る」ことを受け、高等部流通班によるパン販売と外部講師による体験講座の取り組み例を紹介。
・地域に向けた高等部によるパン販売をとおして、接客する際のスキルや達成感、地域とつながる思いや学校への帰属意識が身についた。
・外部講師による体験授業をとおしてコミュニケーション能力の向上を図った。
・視覚部門で打楽器体験、聴覚部門でマジックチャレンジ講座を体験、小学部では打楽器体験を実施予定。
・各学部、各部門のこれまでの地域との協働事例の報告
・各学部、各部門の今後地域と取り組んでいきたいことを提案

意見交換
・小学部では、共和小との交流を行った。共和小の児童による学校紹介資料や手話付きの校歌を披露してくれた。本校にも児童が訪れた。
・障害のことがわからないからなにもできない部分がある。交流をとおしてお互いに理解を深められるとよい。
・現場実習やインターンシップの前段階の職業体験をとおして働くことの理解を深めてもらえたらよい。そのための機会を提供できるように整えていきたい。
・高等部が販売しているパンは売り切れてしまうことがあるのか。パンが好きなので余ったら連絡してほしい。
　→現在1日70個程度作って完売している。生徒が慣れてくれば、1日で110個程度は作れるようになる。そうすれば余ることがあるかもしれない。
・共和小では吹奏楽部がある。交流の希望があれば言ってほしい。誰かに聞いてもらう機会は、児童のやる気にもつながる。
・学校で打楽器や音楽の音、楽しそうな声を聞くが、今後も本物に触れる機会を作ってほしい。吹奏楽部の音楽を聴く機会も設けてほしい。

終了